

Life with Green Technology
三協アルミ

豪雨にも・強風にも
負けない強さ

もれなく強化。

てまなく進化。

手間なく、お掃除ラクラク!
フラットレール

ハイスベックサッシ
ALGEO
アルジオ

断熱性・防露性にも優れた
[アルミ]+[樹脂]複合サッシ

「アルジオ」は、耐久性に優れたアルミと、アルミに比べ1/1000の熱伝導率で外の熱が伝わりにくい樹脂の複合構造。優れた断熱効果を発揮し、結露の発生も抑えます。



GOOD DESIGN
AWARD 2015



三協立山株式会社 三協アルミ社

alumi.st-grp.co.jp

月刊 建材 ナビ Navi

特集：リモコン電動を軸に電動化率アップを
進める「スクリーン型窓シャッター」
「スリット型電動シャッター」
「外付ブラインドシャッター」

商品群
〈窓・ドア/エクステリア〉
〈医療・商業施設・ビル〉

特集：2017年期待の環境・リフォーム

2月号
No.219

ナブコシステム

低温庫向けの高断熱・高気密・超高速スパイラルドア「SST-TK100」、温度管理された食品加工工場・精密機械工場・クリーンルームにも最適

■高断熱・高気密・超高速スパイラルドア「SST-TK100」——ドイツのエファフレックス社製「超高速スパイラルドア」シリーズの低温庫向けに開発された新しいラインナップ。気密性も高く温度管理された食品加工工場や精密機械工場、クリーンルームなどさまざまなシーンに利用できる新商品。

特長は、パネル厚100mm仕様で、使用可能温度帯が-30℃～0℃（反装置側）、0℃～30℃（装置側）。結露防止のための三方気密ゴム及びパネル連結部内部にヒーターを標準装備する。また、独自のAFMシステムを用いて、ドアパネルをフレームに押し付けることで高い気密性能も有している。国内でJIS A4702気密試験を受けA-4等級。製作寸法は最大W4000mm、H6000mm（但し最大18㎡まで対応可能）。

特殊複層ガラスユニットを採用した完全フラットecoドア「N-Flatドア（F型）」

■「NS e-style ドアシリーズ」（安全性と機能性を追求した究極の扉シリーズ）——◆完全フラットecoドア「N-Flat ドア（F型）」新開発の特殊複層ガラスユニットを採用したドアの内外ガラス面と

縦フレームのフラット化を実現した安全性を追求したecoドア。内部側に防護柵や防護扉がある場合でも指はさみ防止のための引き残しが不要なことも特長。◆四方フレームの大型タイプ「ハイグランドドア（H型）」：現代的な建物にフィットする外観上のアクセントとして、スリムな角だし縦フレームを採用してシャープさを向上。最大ドア高さ3500mmを実現。強化安全ガラスのコバをフレームでカバーし安全性を向上させ、一般扉ドアとの互換性に優れ、取替え工事も容易にできる。

日本の四季を存分に満喫する為のアイテム、ナブコ手動上下式ガラスクリーン「Café au Lâ（カフェオレ）」

■これまで国内エクステリア建材ではなかった手動上下式ガラスクリーン。

その時々々の気候に合わせて任意にスクリーンの高さを変えられるという発想から生まれた新商品。寒風が吹く冬の季節でも屋外で有意義に過ごす、レストランやカフェのテラス席に最適。また、「Café au Lâ（カフェオレ）」を設置することでパラボルヒーターを必要最小限にすることが出来る為、客席数やテーブルレイアウトが自由自在になり、エコにも貢献する製品になる。発売は2017年春を予定している。

YKK AP

ビル用エントランス商品「SYSTEMA 31e」、高意匠化・内装木質化に対応し地産材使用の内観「木化粧仕様」発売



■高意匠ビル用エントランス商品「SYSTEMA 31e」——オフィスビルや医療施設などの非居住建築物・公共建築物の高意匠化・内装木質化のニーズに対応したビル用エントランス商品。

外観は、10mm幅のグリッド目地を設けることでスリムさを強調したフレームを採用し、ガラス面の透明感と開放感を強調した意匠。

また、自動ドアのフレーム幅を統一するなど、低層部から高層部まで建物全体のトータルコーディネートが可能にした。

内観は、フィン形状のシャープ感を得られる「アルミ仕様」と、エントランス商品では業界初の「木化粧仕様」（木材現地調達品）の2タイプ。

とくに、温かみの天然木を使用する「木化粧仕様」は、国内地域産の木材をアルミフレームにアタッチメントを介して取り付けられるから、近年の公共建築物の内装木質化に対応すると共に、地球環境への配慮、地域林業の活性化にも寄与することが期待される。

三協立山

通期業績売上高3420億円（3.0%増）、営業利益85億円（36.0%増）を予想、建材2200億円／40億円の減収減益

三協立山（山下清胤社長）の平成29年5月期第2四半期連結業績は、売上高1583億6700万円（前年同期比5.7%減）、営業利益40億3900万円（78.5%増）、経常利益40億4400万円（142.7%増）の減収増益となった。

セグメント別の売上高／営業利益——◇建材事業1008億0300万円（3.2%減）／22億3000万円（26.8%増）。◇マテリアル事業195億7200万円（11.8%減）／18億2200万円（7.8%増）。◇商業施設事業184億3700万円（6.2%増）／10億8400万円（34.9%増）。◇国際事業194億7900万円（19.4%減）／営業損失10億7900万円。

通期予想——売上高3420億円（3.0%増）、営業利益85億円36.0%増、経常利益75億円39.0%増。セグメント別：建材2200億円／40億円。マテリアル430億円／36億円。商業施設370億円／17億円。国際420億円／損失7億円。

YKK AP

「防火窓Gシリーズ」の「アルミ複層タイプ」「アルミ樹脂複合タイプ」に業界初の「耐熱強化複層ガラス仕様」

YKK AP（堀秀充社長）は、国土交通大臣認定防火設備「防火窓Gシリーズ」に、木造戸建住宅用の「アルミ複層タイプ」「アルミ樹脂複合タイプ」として、業界初の「耐熱強化複層ガラス仕様」を1月10日から全国発売を開始した。

「耐熱強化複層ガラス仕様」（耐熱強化Low-E複層ガラス透明）は、ガラス面積をおおきくとり眺望性を重視した最近の住宅用窓スタイルに対応し、断熱性との両立を実現する。とくに都市部において防火／準防火地域での採用、浸透に力をいれる。また、網入ガラスの防火窓と比較して、最大約15%軽量化（引違い窓16513サイズ障子）していることも特長。窓の閉開はしやすく、施工・搬入時の負担も軽減される。同時に、眺望性に優れた「クリアネット網戸」を採用する。窓種は、「アルミ複層タイプ」（熱貫流率2.33W/m²・K中空層10mm以上）と「アルミ樹脂複合タイプ」（熱貫流率3.49W/m²・

K中空層10mm以上）に、引違い窓（窓タイプ）、引違い窓（テラスタイプ）、片上げ下げ窓、FIX窓、たてすべり出し窓（オペレーターハンドル仕様）、すべり出し窓（オペレーターハンドル仕様）。

ガラス入り参考価格：引違い窓（窓タイプ）W1690×H1170mmのアルミ樹脂複合タイプ27万6900円／アルミ複層タイプ19万7700円。たてすべり出し窓W640×H1170mmのアルミ樹脂複合タイプ12万8300円／アルミ複層タイプ7万6400円。

中国建築門窓業界「金軒賞」をブランド部門で「YKK AP」、窓CW部門で「LD 135 スライディング」が受賞

YKK APは、中国金属構造協会主催の第2回建築門窓業界「金軒賞」を、「もっとも影響力があるブランド」部門で「YKK AP」、「もっとも創造力がある門窓カーテンウォールシステム」部門で「断熱サッシ「LD135スライディング」」がそれぞれ受賞した。

また、「LD135スライディング」は、上海建築材料業界協会主催の「上海市新緑賞」の「機能設計優秀商品」部門も受賞している。断熱サッシシリーズ「LD135」は、中国の華東エリアを中心に供給している商品。熱変形防止断熱材を採用した高い断熱性と独自の排水機構による耐水密性が特長。同時に様々な機能部品を使い操作性、安全性を高いレベルで実現している。

日本サッシ協会／カーテンウォール・防火開口部協会

省エネ・高付加価値製品の普及、商材の強みを活かしたリフォーム市場の掘り起こしを推進——白井理事長



日本サッシ協会／カーテンウォール・防火開口部協会は1月20日、東京・明治記念館で「平成29年新年賀詞交歓会」を、由木文彦国土交通省住宅局長、土田浩史経済産業省製造産業局大臣官房審議官の来賓をはじめ協会理事・会員出席の下に開催した。

冒頭、白井春雄理事長・会長は、「新築住宅の市場規模が圧縮されていくところ、業界としては高付加価値製品の普及、新たな市場つくりとしてリフォーム市場の掘り起こしも今後はより一層必要となります」。

「付加価値のひとつである省エネルギー性の向上については、COP21で各国の温室効果ガス排出量削減目標の設定がされ日本としても住宅を含む建築物の省エネがさらに促進されていくものと存じます。今年は省エネ基準が2000㎡以上の非住宅建築物に対して義務化されます。また、建材トップランナー制度については2020年の目標達成に向けた活動も推進されると共に、ZEH、ZEBの普及を含めて、業界にとって省エネ化推進への貢献を求められる年となります。

「リフォーム市場については、住宅ストック循環支援事業の交付申請が始まります。この市場活性化の支援事業について感謝し期待しています。ただ、政策に頼った活動のみでは本来の業界発展に結びつかないと考えます。住宅から逃げる暖房エネルギーの半分以上を占める窓をエコリフォームすることは、高い省エネ効果を生みます。我々にはカバー工法や内窓設置等々、短期間でリフォーム工事を完了させられる商材を持つという強みがあります。これらを活かしてお客さまにご負担をかけずに快適性を提供する窓リフォーム市場を形成していくことは業界の発展のためには必須と考えます。本年も行政施策を活用しながら、窓・サッシの省エネ化に加えて防火・防犯・安全も含めた高付加価値商品の普及、他にも契約適正化の推進、社会保険の加入推進、施工技能者の育成などについても努めてまいります」と挨拶した。

全国自動ドア協会

制定予定のJIS規格を関係者にご案内して自動ドアの安全性を高めていくことが責務——上仲会長



全国自動ドア協会（上仲宏二会長）は1月17日、東京・アジュール竹芝で「2017年新春賀詞交歓会」を約100人出席のドに開催した。

冒頭、上仲会長は「本年は四年です。西は新年に初めて鳴くということで縁起が良い、また取り込むということでビジネスには縁起よい年と言われています。昨年のはじめにはイギリスのEU離脱、暮れにはトランプ氏が勝利するという世の中先の見えない状態にある昨今です。この変化にどう対応していくか我々の力が試されていると思います。国内は2020年の東京オリンピック

に向けて会場施設、宿泊施設が建ちますし、中小大規模再開発もありますから、自動ドア業界はこの先3年4年仕事をいただけるかと期待しています。協会としては、安全性を高めるJIS制定に取り組んでいます。順調にいけば4月には制定される見通しです。今回のJISは、自動ドア、セッサの規格化だけではなく、サッシ、ガラスについても安全性が求められるものですから、関連の業界、施主様、管理会社様到我々自動ドア業界がJIS規格をご案内して、自動ドアを安全なものにしていくのが我々の責務と考えておりますので、会員の皆さまよろしく願います」と挨拶した。引き続き、山村望副会長の乾杯の挨拶後、交歓・歓談に移った。古野重幸副会長が中締め挨拶をこなした。

日本シャッター・ドア協会

浸水防止用設備のJIS化、シャッター・ドア施工技能検定制度への取り組みを進める——木下会長



日本シャッター・ドア協会は1月13日、東京・グランドアーク半蔵門で「平成29年新年賀詞交歓会」を開催した。

冒頭、木下和彦会長は、「西年は運氣や人を取り込み、商売繁盛につながると古くから言われております。米国の次期大統領のトランプ氏が公約した大規模な公共投資による米国内経済成長の加速が予想されます。また、国内ではオリンピック施設の格格的な発注など明るい話題が出てきておりまして、期待の膨らみとなるのではないかと期待をしております。

「当協会の活動の目的はシャッター・ドア、防火設備の性能向上と適切な品質・安全性を確保し、健全な普及促進を図ることを目的としています。その一環として昨年からの防火設備の検査報告制度もスタートしています。また、新たな重要なテーマとしては浸水防止用設備のJIS化、シャッター・ドアの施工技能検定制度への取り組みも現在行なっております。

「我々会員企業は自社の健全な成長を追求しつつ、合わせて業界全体の発展についても力を発揮しなければなりません。共存共栄は存続の条件であると松下幸之助氏が申していますが、そのことを私は心に刻み、会員の皆さまと共に邁進したいと思っています。協会として社会に貢献できる事業に取り組

んで参りたいと存じますが、その実現ためには皆さまからのご支援がなによりも大切です」と挨拶した。

ナブコシステム

ステンレス建材のエヌ・エヌ・トートを「ナブコトート」、エヌ・エヌ・メタルを「ナブコメタル」へ社名変更



ナブコシステム（山村望社長）は1月1日付で、100%子会社のステンレス建材工場であるエヌ・エヌ・トートを「ナブコトート」、エヌ・エヌ・メタルを「ナブコメタル」にそれぞれ社名を変更した。

◇「ナブコトート」概要——所在地：宮城県栗原市築館字新田20番地2／代表者：大浦雅宏社長／事業内容：金属製建具（ステンレス、スチール）ならびにその他金属内外装全般製造／資本金：8000万円／設立年月日：平成13年3月27日／従業員59名（平成28年12月1日現在）／年間売上高7億2000万円（平成28年5月期）。

◇「ナブコメタル」概要——所在地：札幌市西区寒寒16条14丁目6-37／代表者：是常謙悟社長／事業内容：金属製建具（ステンレス、ブロンズ）ならびにその他金属内外装全般製造／資本金：4000万円／設立年月日：昭和44年7月8日／従業員39名（平成28年1月1日現在）／年間売上高25億円（平成27年5月期）。

◇「ナブコシステム郡山支店」の新事務所（スタッキングドア、GT-710バリオブランパネルドア仕様、SOAナブコ気密ドアなど設置）——住所：福島県郡山市安積町荒井字石樋16-1／電話024-946-1725・FAX024-947-3505。◇「ナブコシステムくりこま営業所」新事務所（スタッキングドア、DS型自動ドアHM仕様バリオブランパネル仕様、NSE-styleドアF型など設置）——住所：宮城県栗原市築館字沢沢上橋32-157／電話0228-24-7390・FAX0228-24-7379。

昭和フロント

低層用CW「ローライズX」マリオン・バックマリオンタイプ方立を共通化、デザイン対応力をアップ

昭和フロント（長谷川伸二社長）は、2016年4月発売の低層用カーテンウォール「ローライズX」に、「マリオンタイプ」車板ガラス仕様「バックマリオンタイプ」ならびに「たてすべり出し窓」を追加、1月16



日から発売を開始した。

特長は、「マリオンタイプ」と「バックマリオンタイプ」の方立を共通化したことにより、1階2階マリオンタイプ（ガラスが方立の奥に付く）、3階以上バックマリオンタイプ（ガラスが方立の前面に付く）のスタイルが同一面内で採用できファサードデザインの幅を広げた。

また、既存の「外倒し窓」突出し窓に、框収納タイプのフラットハンドルや開放制限アームを使用し意匠性を向上させた「たてすべり出し窓」を追加し、マリオンタイプ、バックマリオンタイプ共に隠し框式の開口部が3種類に拡充された。

カラーは、シルバー、ブロンズ、ビュアホワイト、ブラック、ステンカラー、ダークブロンズの6色。方立見込200・250・350mm。耐風圧性能S-3（1600Pa）・S-4（2000Pa）・S-5（2400Pa）。気密性能A-4以上。水密性能FIX1500Pa、開口部1000Pa。

三和ホールディングス

学校間仕切部の日本スピンドル製造建材事業を4月1日付譲受

三和ホールディングス（高山俊隆CEO）は、日本スピンドル製造（有藤博社長）より木製学校間仕切を主力とする建材事業を4月1日付で譲り受けること発表した。日本スピンドル製造が建材部門を分割し、同社100%子会社のスピンドル建材サービスに吸収させた上で、スピンドル建材サービスの全株式を譲り受ける形をとる。譲受後、社名を三和スピンドル建材株式会社として、連結対象子会社としてグループの間仕切事業の一翼を担う。

日本スピンドル製造の学校間仕切事業を譲り受けることで、三和グループは学校間仕切市場のトップシェアを確保し、多品種化戦略の重点部門である間仕切事業における拡販体制を整えた。日本スピンドル製造建材事業の売上高は23億円（2015年度実績）、従業員64名。